

第 35 回（生活支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 28 年 10 月 17 日（月） 13：00～15：30

2. 開催場所：柳川療育センター

3. 参加者（所属のみ）

第二若楠園、城山学園、夢工房、ミライプラス、八女作業所、ゆうゆう、蓮の実団地、飛形学園、年輪の園、蓮の実園、ふるさと、陽だまりの里、リーベル、八女市福祉

4. 実施内容

『柳川療育センター 視察』

○視察結果

総務課長である江頭氏よりセンター3階の研修室へ案内される。まず、木下座長より見学受け入れていただいたことへの謝辞を柳川療育センター施設長高嶋施設長へ伝えて頂く。それに応えられるように高嶋施設長から歓迎の挨拶をいただく。その後、江頭氏よりセンターの概要を準備されていたパンフレットに沿って説明される。

今年5月に移転されてきた新「柳川療育センター」は、総面積が旧施設の3倍。受入利用者は入所が旧施設の2倍の110名、短期入所も同じく2倍の10名であるとのこと。その他在宅支援として通所の児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護も行なうとのこと。また、今まで通りに専門外来診療から外来リハビリテーションも行なう。発達外来と未就学児の発達通園の二つを持つ発達支援センターも設置されている。全てを合わせれば理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が各十数名ずつ配置されており、それに加えて心理指導室なるものもあり臨床心理士も配置されていた。また新たに相談支援事業も始めてある。（概略）話された後は、二班に分かれて館内を見学する。完成されたばかりの施設であるのできれいさはもちろんだが、外の景色を廊下などから見ることができ、中庭やリハビリ庭園や花壇、ウッドデッキなど自然な明るさも感じられる建物であった。天井高も十分で廊下幅や訓練室の広さ、個別ルームの数も十分で、遠方から来られる家族の為の宿泊室も低料金で提供されてあった。入所者の部屋（個室ばかりではないが）や共有スペースとも駐車場を含めて、以前のような窮屈さは全く無くなっていた。リラックスできるスペースが多く、利用したくなるような雰囲気が施設全体に出ている。

入所棟については、1階・2階・3階と分かれているが、今はまだ1階はオープンさせていないとのこと。2階は満床、3階もまもなく満床となる予定だとのこと。1・2階は割と軽度な方、3階は医療ケアが必要な方と、そのケアの必要量で階を分けているとのこと。通所も重度心身障害児者を中心に受け容れていくが、送迎は行っていないとのこと、そこが利用する上でのネックにはなるだろう。

しかしながら、地元の大きな病院がグループ医療として連携ができており、イザという時の安心感がある。八女からは少し遠い感じがしていたが、実際には市中心から30分かからない距離から、十分に活用できる社会資源であるといえる。